

# 魅力ある漁業で甑島の未来を創る

## ～漁業に生き甲斐を！漁協青年部に活力と希望を!!～

甑島漁業協同組合青年部 中尾勝志

### 1 地域の概要

私の住む薩摩川内市上甑町は、鹿児島県本土の西方約38kmに浮かぶ甑島列島（上甑島、中甑島、下甑島）の北中部に位置し、人口約1,400人の町である（図1）。平成16年10月に海を隔てて、本土の一市四町と甑島の四村が広域合併し、上甑村は薩摩川内市上甑町となった。

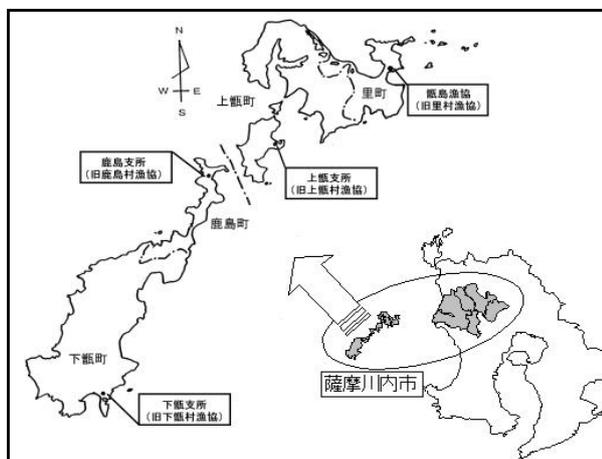


図1 甑島位置図

### 2 漁業の概要

上甑町の海岸線は、切り立った断崖と荒々しい岩礁地帯、転石等に取り囲まれ、周辺海域は、西側を北上する対馬海流と本土との間を南下する甑海流の影響で、様々な魚種が回遊し、好漁場が形成され、古くからブリ、アジ等を対象とした定置網漁業が営まれ、現在はキビナゴやバショウカジキを対象とした刺網漁業、一本釣り漁業等も盛んに営まれている。

私が所属する甑島漁業協同組合は、平成15年10月に、里村漁協、上甑村漁協、鹿島村漁協、下甑村漁協が合併し発足し、正組合員は285名、准組合員は1,157名と県下で最多となっている。

平成23年甑島漁業協同組合における漁船漁業の水揚げは、1,558トン、669,280千円で、そのうちキビナゴ流刺網漁業は、595トン、260,551千円で、総水揚げ量、金額の約4割を占める重要な漁業である（図2,3）。

### 3 研究グループの組織と運営

甑島漁協青年部は、漁協合併に伴い平成19年6月に再編、設立し、4つの支部（里、上甑、鹿島、下甑）で構成され、現在、19名の会員で活動を行っている。

主な活動は、魚食普及、販売促進、後継者育成、視察研修などで、私は平成19年度より本部役員と上甑支部長を務めている。

### 4 研究・実践活動の取組課題選定動機

私が漁師になったきっかけは、幼い頃から海が大好きだったことと、当時漁師だった父親が病に侵され、一人で十分に漁に行けなくなったからだった。

平成8年に帰郷してからのというもの、毎日一緒に漁に行き、父の背中を見ながら一生懸命漁業を学んだ。

しかし、やっと漁業を覚えてきたかなという矢先、病が悪化した父が他界してしまっ

た。たった2年しか一緒に漁をすることが出来なかったが、その間に書き留めた数冊のノートを頼りに一人で漁に出ることになった。

慣れないうちは、クタクタになりながら獲ったキビナゴを、先輩漁師が阿久根まで運んでくれたり、なかなか魚群に遭遇しない時は、「おいが後ばやらんか！（私が見つけた漁場の近くに網を入れてもいいから）」と、言ってくれたりもした。

また、カジキ漁にいたっては、急な時化で網を揚げられずにいた時、私の代わりに網を揚げてもらった時もあった。

睡眠不足で船が座礁し、船に大きな穴が空き投げ出された時は、「もう駄目だ！」と、命の危険を感じた時もあった。

このように、先輩漁師に助けられながら約15年、ようやく一人前の漁師になってきたそんな矢先、気がつけば甑島も、魚価の低迷、漁業者の高齢化と減少、魚離れ、過疎化、燃油の高騰など、全国同様に漁業不振の波に飲み込まれていた。

好きな海での仕事を続けたい。島の基幹産業である漁業がこのまま衰退しては、甑島の元気が無くなってしまう。父が漁業をやっていた頃のように浜に元気を取り戻したい！漁業を盛り上げて、浜を元気にして、もっと楽しみながらワイワイとみんなと好きな漁業をしたい！

そんな思いから、「若者に漁業の魅力をもっと感じてもらう必要がある」、「漁業に就く若者が増えてほしい」、「子供達にもっと魚を食べてもらいたい」、「甑の魚を全国のみんなに知ってもらいたい」など、いろんな思いが頭を交錯し、そんな思いを達成するため、「魅力ある漁業とするために自分の漁業経営を安定させる」ことや「青年部活動を活性化することで、担い手育成と甑の魚をPRする」ことなどを自ら実践することにした。

以下にその具体的な活動内容を紹介したい。

## 5 研究・実践活動の状況及び成果（または効果）

### (1) 魅力的な漁業を自ら創る。

漁業に魅力を感じてもらうには、やはりそれだけ仕事と収入に魅力がなければならぬ。

はじめは、キビナゴ漁が中心であったが、それだけでは収入が十分でなかったり、少しもの足りなさを感じてきた。

そこで、周年行うキビナゴ漁を柱に、平成13年より、秋から春にかけてはイセエビ漁、夏には籠網漁やアワビ漁、冬場にはメジナなどを対象に一本釣り漁業などを組み合わせた（表1、図4）。

このように、取り組む漁法、時期を見直すことで、安定した漁業経営を目指した。

キビナゴ漁では、一人操業をカバーするため、サイドローラーや最新式のソナーを取り付け、漁獲効率の向上を図ったり、平成17年には島内に先駆けて海水冷却装置を導入し、特に夏場の鮮度保持に努めた。その結果、近年では徐々に市場の評価も上がり、単価の向上にも繋がった（図5、写真1～3）。

籠網漁では、以前習得した溶接技術を活かし、オリジナルの籠を自作したり、平成23年には、籠の引き上げ作業を省力化するため、艀に超小型のクレーンを取り付けた。

当時は誰も艀にクレーンをつけている者がいなかったため、はじめは馬鹿にされたが、作業性がよくなり、作業時間の短縮にもつながった（写真4,5）。

籠網漁は、一見地味な漁業だが、キビナゴ漁の行き帰り、ついでに出来る漁なのでコストパフォーマンスに優れ、さらに島の居酒屋やスーパーなどからは、「魚の少ない夏の時期に、籠で獲れた魚があるから助かるよ！」と、重宝がられたりした。

また、イセエビ漁では、他の魚がかからないように網の色や目合いを工夫したり、施網前には、一回海に潜って瀬や潮の状況を確認してから行うなど、他の人より一手間かけて漁を行うことで漁獲効率の向上を図った。

その結果、最近では宅配にシフトしつつあるものの、島内でも指折りの年間水揚げ数量（漁協）を誇るようになった（図6）。

一方、以前従事していた電気工事関係の技術を生かし、エンジン以外の修理などは、ほとんど自分でするなどし、経費の削減にも努めた（図7）。

そのような努力の甲斐もあって、好きな漁業をやりながら、いつのまにか一般企業のサラリーマンにも劣らない収入が得られるようになり（図8）、その結果、周りの若者の中に漁業に対して魅力を感じてくれる人が増えてきた。

そして生活に少し余裕が出てきた平成20年度からは、上甕商工会青年部長、薩摩川内市商工会青年部の役員を任されるほどになった。

## (2) 観光漁業

最近では、グリーンツーリズムやブルーツーリズムなどの言葉をよく耳にするが、私は平成16年に建網用の漁船を新たに購入し、磯遊び、海上散歩、シュノーケリング、海鮮バーベキューなどを組み込んだブルーツーリズムを島内で先駆けて取り組んだ。

自らチラシを作り、それを商工会や飲食店に配布したり、商工会のホームページに掲載してもらうなどして観光客を呼び込んだ（図9）。

その結果、新幹線開業効果も手伝い、最近では小さな漁村にも若い観光客を目にする機会が多くなり、微力ながら私の取組も地域の活性化に寄与することが出来たのではと感じた（図10）。

一方、ツアーの希望者には、イセエビ漁の体験も体験メニューに組み込んだ結果、後に平成18年よりはじめた伊勢エビ宅配に繋がり、現在では年間20件程度のリピーターを抱え、また新規顧客も徐々に増えはじめてきた（図11、写真6）。

## (3) 担い手の育成

漁業をもっと身近に知ってもらおうと、平成20年度より青年部上甕支部活動の一環で、子供達に漁業を体験させる活動をはじめた。ここでも、支部長であるため、慣れないパソコンを使って自ら企画書を作り、中学校との調整役も率先して行った。

これまで、「魚の捌き方体験」、「ロープワーク体験」、「選別出荷体験」、「つけあげ作り体験」などを行ったほか、時には本土の青年部などとタイアップしながら鹿児島島の短大でも捌き方の指導にもあたり、魚食普及や担い手の育成に努めた。

## (4) 甕島の漁業のPR

漁協青年部上甕支部と地元の寿司屋が協力し、地元の夏祭りの出店で販売できるキビナゴの新商品(キビナゴ餃子)を開発した（写真7）。

冷めてもカリッと香ばしいうえビールとの相性も良く、夏祭りに来た観光客らに大好評で、二年目の夏祭りでは、この商品を目当てに来るお客さんもいるほどで、うま

く甑のキビナゴをPR出来た。

また、クリスマスプレゼントとして、毎年年末には本土の児童養護施設を訪れ、甑島の魚を使った解体ショーや試食会を行った。きっとこれでまた一人、二人と魚が好きになってくれたなど実感した（写真8）。

その結果、高齢化などにより年々漁業者が減っていく中、一方では本土からの若いIターン、Uターン者が新たに漁業に着業する人もコンスタントに現れるようになり、島の活性化に向けた第一歩を踏み出すことに成功した（図12）。

## 5 波及効果

私がいろんな取組を行っていくうちに、特に青年部員の対応が変わってきた。

本土での販促活動、中学校での水産体験教室、施設訪問など、「え～こんな事をするの？」と言われたり、夏祭りの前日に行った売り物のキビナゴ餃子作りでは、1人100本製作というノルマに対し、青年部員らは明らかに嫌な顔をされたりもした。

しかし、はじめは腰が重かった漁協青年部や商工会青年部も、やってみたらそれなりの反響があることに驚いたのか、最近では尻をたたかなくても率先して活動に参加してくれるようになった。

青年部支部長としての私のモットーは、「楽しく活動しよう！」である。例えば夏祭り、売り物のビールを片手に販売した結果、あわや赤字になりそうな年もあったほどだったが、それでもいいんだと割り切って笑顔を絶やさず活動した。

その結果、若い青年部員が進んで活動に参加するようになり、これが楽しく継続して活動できる秘訣だと考えるようになった。

また、漁村の先輩方に関しては、「またかつちん（私の愛称）が何かやってる・・・」と、はじめは私を馬鹿にしていたが、最近では静観してくれるばかりか、何かあるごとに助言や手伝いの手を差し伸べてくれるようにもなった。

そして、このように人間関係の地盤づくりがうまくいけば、将来漁村の活性化も容易になるのではないかと考えるようにもなった。

## 6 今後の計画

次の目標は小型定置網漁業を行い、もっと経済的に体力をつけたいと考えている。その際は、すでに漁協や普及指導員には相談しているが、水産庁のグループ化の事業などを導入して法人化まで行い、浜でブラブラと中途半端に遊んでいる若者や漁業を引退した高齢者を雇用するなど、水産業の発展と地域の活性化を図りたい。

また、観光漁業では、市の観光協会が行っているブルーツーリズム事業に本格的に参加し、全国のみんなに甑島の漁業を知ってもらい、少しでも甑島に足を運んでもらおうと考えている。

そして、これからもこのような機会が頂けるのなら、まだまだ足りない担い手の育成や漁業者が直面している問題、漁業振興策などについて、大きな声で世間に訴えていきたい。

昨年10月、我が家に待望の家族が増えた。島の漁業や観光資源が次世代に受け継がれていくよう、これからも島の将来のためにがんばりたい。

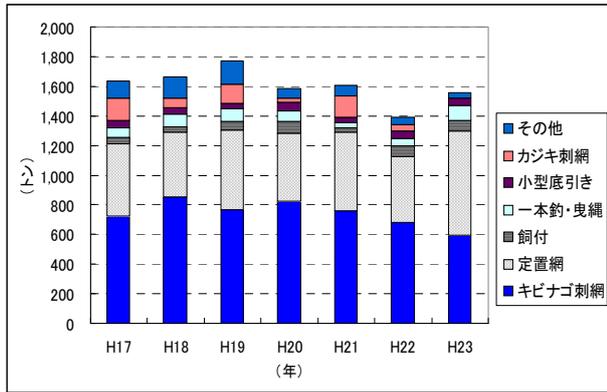


図2 甌島漁協の漁船漁業における漁業種類別漁獲量

(出典：漁協総会資料)

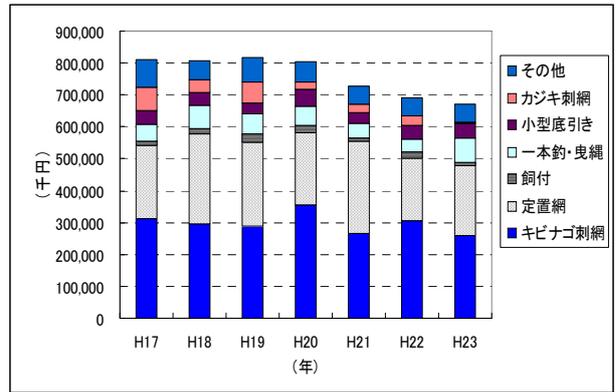


図3 甌島漁協の漁船漁業における漁業種類別漁獲金額

(出典：漁協総会資料)

表1 月別漁業体系

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
キビナゴ漁	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
イセエビ漁	///	///			///	///	///	///	///	///	///	///
籠網漁		///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
アワビ漁					///	///	///	///	///	///	///	///
一本釣り									///	///	///	///

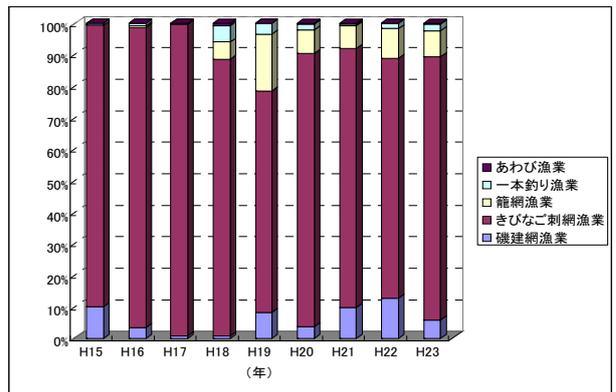


図4 漁業種類別水揚げ金額割合の年別推移（中尾分）

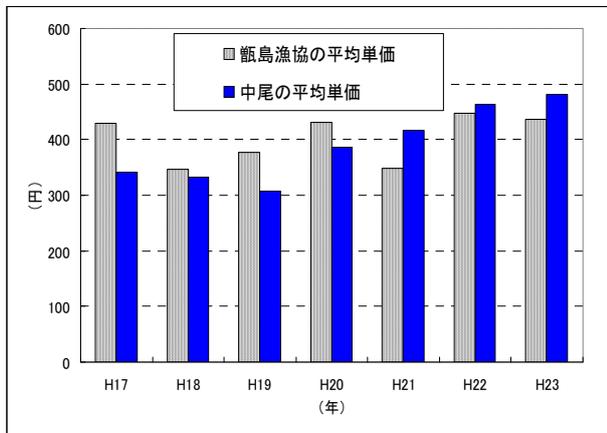


図5 キビナゴ平均単価の年別推移

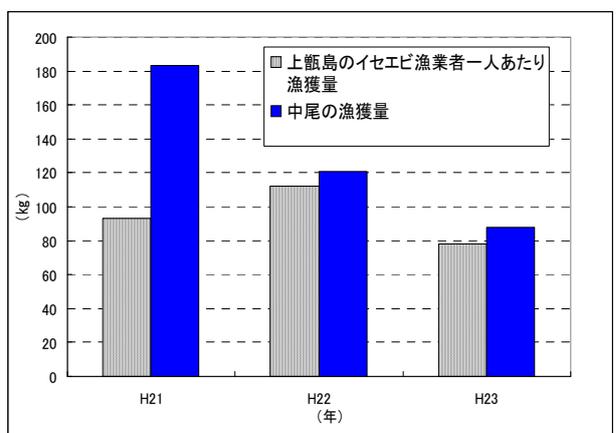


図6 上甌島イセエビ漁業者の平均及び中尾水揚げ数量の年別推移（宅配分は除く）

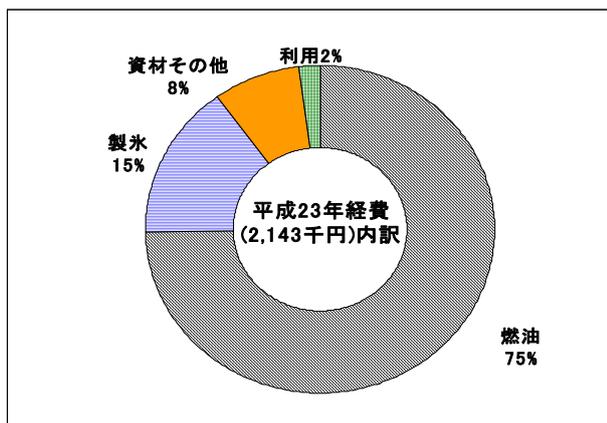


図7 平成23年における経費内訳（中尾分）

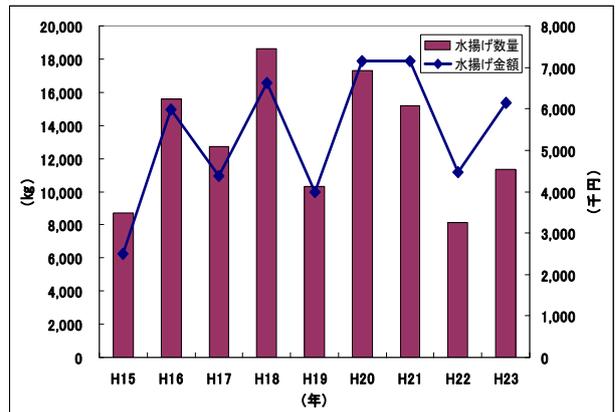


図8 水揚げ数量と金額の年別推移（中尾分）

**大自然の中でおもいきり遊ぼう**  
海の中はまるで別世界★一度みてみそ！  
家族で夏休みの思い出にぜひ来てにゃ～

① **シュノーケリング**  
きれいな海にもって、サンゴや魚と仲りの魚を見よう！

② **無人島散策**  
遊覧してゆつと遊ぼう。

③ **海上散歩**  
遠くの上野原まで散歩しよう！  
遊覧してゆつと遊ぼう。

④ **魚釣り体験**  
魚釣りが楽しそう！

⑤ **魚釣り体験**  
魚釣りが楽しそう！

⑥ **体験**  
魚釣りが楽しそう！

⑦ **イセエビ漁体験**  
夏目20日から、この日にイセエビ漁体験ができます。（+2,000円）

図9 自ら製作したブルーツーリズム（観光漁業）のチラシ

**上野町のご紹介**

南摩川内市上野町は豊後県東部海上に位置し、約1,000人の人口、約1,000人の小さな町です。海は北の海が神秘的で、南の海は入江が多く、夏には「長目の浜」が有名です。自然の恵みがあふれています。また、上野町は世界に有名な「子百合」の産地としても知られ、7月中旬から、島のあちこちに咲き誇ります。

アクセス方法  
①「自家用車」 平日帰町可能  
②「レンタカー」 平日帰町可能

上野町にもいろいろなお店があります。お土産、お食事、観光の達人が海を案内します！海のリゾート気分を味わってください。お土産もたくさんあります。お土産もたくさんあります。

船長中尾勝志です。 大志丸です。

住所 〒836-1281 南摩川内市上野町平良289-1  
営業期間 7月～9月  
料金 約半日1名5,000円 中学生以下は半額  
※お魚が良ければイセエビが当たる！  
定員 1日1組(6名まで)  
その他 魚料理の美味しい民宿の子供も歓迎！  
問い合わせ 090-7981-4681 大志丸 中尾勝志 内容はご相談ください。

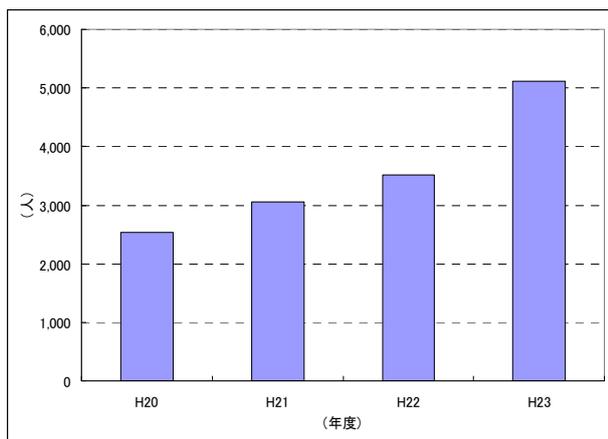


図10 甕島への観光客数の年別推移

(出典：薩摩川内市)

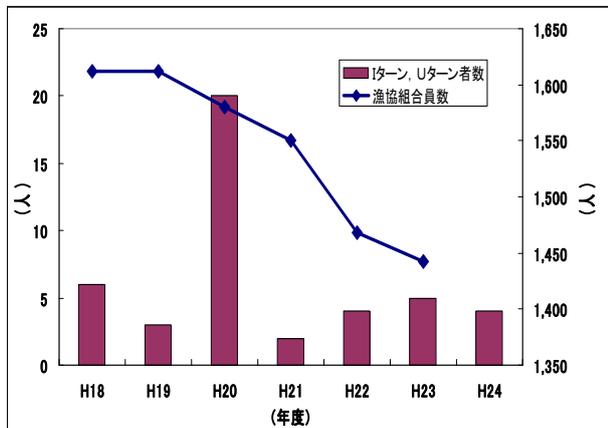


図12 甕島における組合員数と新規漁業就業者（40歳以下）の年別推移

※平成20年より大資本企業によるマグロ養殖が本格化

お歳暮シーズン到来！！

**地元漁師の伊勢エビ**  
販売いたします。

期間：11月～1月

大切な人へぜひどうぞ！  
箱付き販売、発送もできます。

価格：100gあたり600～800円  
(訳あり伊勢エビ100円/g引き！)  
※ご予算に合わせて箱詰めいたします。

クロネコ便の紙に住所を書くだけでOK!

☆連絡先☆  
電話：090-7981-  
【受付時間 15時～20時】  
「第三 正丸」 中尾 勝志

図11 イセエビ宅配のチラシ



写真1 キビナゴ船 正丸



写真2 ソナーなどの電子機器



写真3 海水冷却装置



写真4 艦に取り付けた小型クレーン



写真5 籠網漁（小型クレーンによる作業）



写真6 イセエビ漁体験



写真7 キビナゴ餃子



写真8 施設での解体ショー